

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

田口 正夫

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和 5年 3月30日提出

活動年月日	令和5年1月11日(水)～ 1月13日(金)	
氏名	田口 正夫	
用務先 及び 内容	1	用務先 広島県 福山市
	1月11日	内容 令和の大普請プロジェクトについて
	2	用務先 山口県 下関市
	1月12日	内容 ジビエ有効活用推進事業について
	3	用務先 熊本県 熊本市
	1月13日	内容 熊本城災害復旧事業について
	4	用務先
	月 日	内容
備考		



行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年1月11日(水曜日)
視察内容	令和の大普請プロジェクトについて(広島県 福山市)
視察者	田口正夫

人の想いをつなぐROSE MIND ばらのまち福山

福山市は、人口約46万人、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、元和5年、初代藩主水野勝成(徳川家康のい)とこ)が備後10万石の藩主として入封、元和5年に福山城を築いたことに始まり、大正5年市制施行。以来、備後の政治、経済、教育、文化のかなめとして発展の歴史をつづってきた。戦後いち早く都市計画事業に着手、昭和36年大規模製鉄所の誘致、さらに昭和39年備後地区工業整備特別区域の指定を契機に、めざましい躍進を遂げ、令和5年には福山地方拠点都市地域の指定をうけた。平成10年4月1日に中核市へと移行。平成18年3月に福山市として平成の大合併の仕上げとなる神辺町との合併を終え、現在、中国地方では4番目の都市規模となっている。

また、戦後福山の象徴である「ばら」による魅力ある都市づくりを進め、福山みらい創造ビジョンに掲げる「安心と希望の都市」の実現に向けて取り組んでいる。

※福山城築城400年記念事業

福山城公園は、市街地の豊かな都市公園として多くの市民や観光客に安らぎといこいの空間として親しまれてきた。また公園内に存する史跡福山城跡は、国民共有の貴重な文化遺産であるとともに福山市にとってもかけがえのない文化遺産である。

福山城公園内には多くの樹木があり、中心市街地の貴重な緑として親しまれているものの、成長した樹木の根は、石垣を押しつけ積み石の落石、孕み出し等遺構に影響を及ぼし、繁茂した樹木は、天守閣への視界を遮るなど公園内の樹木あり方について様々な課題が指摘されていた。

福山城は西国鎮衛として幕府の威厳を示すため10万石では考えられない規模の巨城であった。天守北側壁面には、敵から攻撃に耐えられるよう1階から4階まで総鉄板張り、全国でも唯一である。令和の大普請では、残された古写真や他城の鉄板の調査、当時の鉄板との比較検証などを行い、素材感などを再現するとともに安全性・再現性に配慮した復元的整備を行い、往時の姿を再現。

福山城のライトアップ、世界的に有名な照明デザイナー石井幹子さんを監修に迎え、令和29年から夜間照明を整備。伏見櫓や筋鉄御門、狭間、御湯殿、月見櫓、美術館プロムナードに続いて、天守やか鏡櫓、鐘櫓にもあかりがともる。

福山城には、全国でも珍しく特徴のある隅櫓がある、宿泊ができ一泊100万円(2名から複数名可能)食事つき貸し切りという、現代にはちょっとうらやましい施設作りである。

福山城の大規模改修に伴い、福山城博物館も昭和41年に福山城が再建されて以来大規模リニューアルを実施。福山城と福山藩の歴史を学ぶことができる展示内容に特化し、クイズコーナーや体験型コンテンツも充実。壁面を活用した大型3面シアターなど最新のデジ



岡崎市の観光リーフレット等を渡す

タル技術で、よりエンターテインメント性が高い展示へと生まれ変わった、またエレベーターの設置により利便性も向上。世代を超えて楽しめる福山城博物館である。



【感想・岡崎市への反映】

- ・福山城はJR福山駅横で利便性の高い交通アクセスがよいという利点がある、全国各地より観光客が利用しやすい。
- ・岡崎城は堀と石垣が昔日の面影をわずかに伝えるばかりであったが、岡崎の象徴である天守がないままではしのびないとする市民の想いは強く、昭和34年に、ほぼ昔どおりに外観の天守が復元された、築64年ほどになる、今後近い内にお城のリニューアルもしくは、建て替え等を考える時期になっている、建て替えの場合は、今のコンクリートでもよいが、名古屋城のように木造復元も視野に入れた改修計画を立てていくとよい。いずれにしても、お城を中心として公園全体の改修、整備が必要になってくることを、考えておかなければならない。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年1月12日（木曜日）
視察内容	ジビエ有効活用推進事業について（山口県 下関市）
視察者	田口正夫

（１） 下関市の概要

下関市は、平成17年2月13日「自然と歴史と人が織りなす交流都市」をまちづくりの基本理念として、旧下関市と旧豊浦郡4町（菊川町・豊田町・豊浦町・と豊北町）の対等合併により新たに設置された、人口約27万人を擁する山口県下最大の都市。

本州の最西端に位置し、三方を海に開かれるとともに天然の良港を有するという地理的条件にも恵まれ、九州あるいは大陸への玄関口として、古くから内外交通の要衝として栄えた。

昭和45年6月の関釜フェリーの就航、昭和48年11月の関門橋の開通、そして昭和49年7月には中国縦貫自動車の供用開始、さらには昭和50年3月の国鉄山陽新幹線の開通など、日本の主要な陸上交通の幹線が集中し、陸海交通の結節点として、また日本屈指の港湾水産都市として発展を続けてきた平成17年10月に中核市に移行、平成25年11月に中核市サミット2023 in 下関を開催。



岡崎市の観光リーフレット等を渡す

（２） 下関市における有害鳥獣対策及びみのりの丘ジビエセンター

平成25年に、野生獣による被害額は175,817千円、令和3年被害額は149,742千円、有害獣の捕獲実績は平成25年2,576千円で令和3年は3,821千円。

※山口県が下関市で行ったシカ対策

- ・昭和22年 メスシカの捕獲禁止
- ・昭和30年頃 絶滅のおそれ(調査の結果生息数50頭程度)
- ・昭和37年 シカ捕獲禁止
- ・昭和40年 わな架設禁止
- ・昭和48年 有害獣として捕獲開始
- ・ .
- ・ .
- ・平成19年 捕獲檻、捕獲柵の解禁

※下関市の特殊性

下関市は、長年わな架設禁止区域であったため、有害獣は猟友会の銃猟による捕獲で対応するものという住民の思い込みが強く、超獣害に強い集落を作るために重要な「農家が自身の農地を守るために自身でわな免許を取得しわなを設置する」という認識がなかった。

※鳥獣被害防止計画

農林業被害・捕獲頭数の現状と今後の計画など基本的な事項のほかに次のことを計画。

- ・狩猟免許の取得を促進
- ・ジビエの有効利用

- ・捕獲機材の導入・整備を促進
- ・シカの効果的な捕獲方法の実証・検討
- ・地域ぐるみの被害防止対策を推進(被害防止計画)

※ジビエセンターの建設のきっかけ

平成20年8月 第4回下関市・長門市両市長会談において決定

両市において捕獲した有害獣を有効活用する体制整備を行い、捕獲意欲の向上や被害の減少を図る仕組みづくりについて検討していく。

1. 有害獣肉を有効活用するための加工・販売を行う組織の育成
2. 有害獣の肉処理施設の整備

※基本計画策定

- ・名称 下関ジビエ有効活用基本計画
- ・目的 地域における有害獣被害を軽減するための仕組みを構築する
- ・下関型ジビエ有効活用モデル＝捕獲処理機能＋加工販売機能＋
地域ぐるみの有害獣被害軽減対策機能
- ・方針 北部(豊北・豊田・菊川)中山間地域
都市近郊(旧市内・豊浦)中山間地域の双方に拠点を整備する。
- ・対象獣 イノシシ・ニホンジカの2種類

※施設設置条例の制定・建築費用

- ・下関市ジビエ有効活用施設の設置等に関する条例(平成25年4月1日施行)

【施設設置の目的】

有害獣による農林作物等の被害軽減対策に取り組む際の負担軽減及び意欲の向上をはかることを目的に有害獣の肉を処理して地域資源として活用するため

【建設費用】

総事業費56,148千円 うち国費27,229千円市費28919千円

※みどりの丘ジビエセンター

- ・指定管理者で運営 静食品株式会社(市内食肉店)指定管理料5,880千円(1年間)

※設置後の効果等

農林業従事者が自分でわなを設置し、ジビエセンターで買い取ってもらい対価を得て、その対価で更なる被害対策を行い、延いては地域ぐるみでの鳥獣害対策を推進していくといった形を目指しているが、浸透するまでには時間が必要。現在、施設設置が被害防止につながっていると言い切れる状況ではない。(わな免許取得者は増加している)

ジビエ処理施設は、有害獣対策に直接的な効果は無いが、指定管理料等で毎年5百万円以上の支出が必要となっている。



【感想・岡崎市への反映】

※有害獣の捕獲者の負担軽減・意欲向上の効果があるように思う。ジビエの普及には役立っている指定管理により指定管理者の経営が順調に行われている愛護団体などの方々へ抗弁ができる等のメリットがあるように思う。本市の額田地域においても、鳥獣被害の軽減を図るためには、市・額田地域・猟友会・JA・食品加工者等と、被害防止対策有害獣肉の有効活用ができるよう打ち合わせを綿密に行い、ジビエセンター等を作った場合運営・利用ができるのか検討をすることが必要と思う。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年1月13日(金曜日)
視察内容	熊本城災害復旧事業について(熊本県 熊本市)
視察者	田口正夫

熊本市の概況

「緑潤う、森と水の都」

熊本市は、人口約74万人、九州の中央、熊本県のほぼ中央部に位置する。有明海に面し、坪井川・白川・緑川の3水系の下流部に形成された熊本平野の大部分を占めている。また、阿蘇山と金峰山系との接合地帯にあり、数多くの山岳、丘陵、大地、平野等によって四方を囲まれている。阿蘇からからの伏流水による地下水が豊富なことや市内にいくつもの川が流れている。



岡崎市の観光リーフレット等を渡す

熊本は古くから「火の国」と呼ばれてきた、大化の改新後、清冽な泉の湧き出る現在の出水町に国府が置かれ、ここを中心に形成された集落が熊本市の始まりである。平成8年4月に中核市に平成24年4月には全国で20番目、九州で3番目の政令指定都市へと移行。平成23年3月の九州新幹線全線開通とこの政令指定都市移行による相乗効果により、九州中央の交流拠点都市として着実に発展している。

平成28年4月14日及び16日に発生した熊本地震では、史上類を見ないM6.5の前震とM7.3の本震の同時期発生により、熊本市や近隣自治体をはじめ県内に大きな被害をもたらした。熊本市では、よりよいまちづくりを目指した創造的復興に取り組んでいる。

熊本城の震災被害の状況(抜粋)

平成28年4月14日 21時26分「前震M6.5」

重要文化財建造物被害数量10棟(長堀80m、9棟は瓦・外壁落下など)、復元建造物被害数量7棟(天守閣瓦落下、壁ひび、堀崩壊など)、石垣崩落被害数量6カ所(膨らみ、緩み多数)

平成28年4月16日 1時25分「本震M7.3」

重要文化財建造物被害数量13棟(倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など)、復元建造物被害数量20棟(倒壊5棟、他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など)、石垣被害数量崩落・膨らみ・緩み517面(うち崩落50箇所、229面)、石垣被害面積約23,600㎡(全体の29.9%うち崩落約8,200㎡全体の10.3%)、地盤被害陥没・地割れ70箇所(約12,345㎡)、便益施設・管理施設被害26棟(屋根・壁破損など)

被害場所

※大天守・小天守(大天守の瓦崩落、大天守・小天守台石垣の一部崩壊)

※宇土櫓(続櫓倒壊、壁漆喰・床など破損)

※飯田丸五階櫓(外壁ひび割れ、下部石垣崩落によるたわみ、角石のみで櫓を支える状況)

※長堀(東側80m倒壊)

※頬当御門周辺(通路両面の石垣崩落)

- ※東十八間櫓(石垣崩壊による櫓倒壊)
- ※北十八間櫓(石垣崩壊による櫓倒壊)
- ※西大手櫓門(東側櫓台石垣崩落により傾き)
- ※二の丸御門(通路両面の石垣崩落)
- ※百間石垣(3ヶ所で崩落、石材が市道を塞ぐ)
- ※宮内橋周辺(石垣がほぼ全長にわたる崩壊)
- ※戌亥櫓(下部石垣崩壊によるたわみ、櫓台石垣より東側全長崩落)
- ※備前堀(堀東側の石垣全長崩落)
- ※数寄屋丸(無数の地割れを確認、前面石垣崩落)

上記のように被害は甚大であるが、重要文化財が数多くあるため、文化庁の指示等と打ち合わせに時間を要している、平成28年度から令和3年度までの事業費は、17,853,657,335円で、文化財的価値の保全を基本としながら、都市公園機能の回復、観光資源としての早期再生を目指し、効率的・効果的な復旧と戦略的な公開・活用の両立復旧に用する年月は、全体工程 35年



【感想・岡崎市への反映】

- ・熊本城の現地を目で見て、肌で感じて、説明員の話をつき、災害の怖さ、地震の怖さを改めて感じた。写真やテレビ・インターネット等で見る災害現場は、一部は復旧できているが、まだまだ気の遠くなるようなことだと思った。「百間は一見に如かず」と言うことわざの通り、現場に行って、見て、聞いて、そこに身を置いて初めて本当の災害を知った
- ・岡崎市もお城を中心に、重要な施設及び石垣等が多く存在している。地震や風水害等いつ被害が起きるかもしれない、災害に備え、より多くの復旧事例を参考に、「いざ」と言うときのために備えをして行かなければならない。